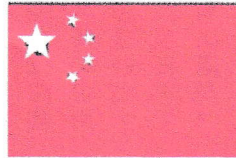
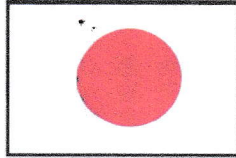


日中がわぐす

No.61

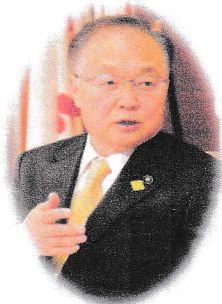
2021年4月1日

ホームページ
www.k-jcfa.com



川口市日本中国友好協会
埼玉県川口市西青木 2-4-20
メゾンエビハラ 302
048-253-2177

編集・制作 電腦俱樂部



学生時代から中国の歴史が大好きで、その縁あってか、埼玉県議会議員時代には、日中友好埼玉県議会議員連盟の会長を務め、友好州県の中国山西省との友好姉妹都市交流を大いに推進しました。特に山西医科大学から埼玉県立医科大学への留学生の受け入れを、当時の県議会で提案して実現できたことは強く印象に残っています。

山西医科大学を訪れた際は、赤いじゅうたんの敷かれた中で花束をいただき、約二十人の訪問団が驚くほどの熱烈歓迎ぶりでした。

☆特別寄稿☆
文化交流
教育・人づくり・街づくり
川口市長 奥ノ木信夫

この時の訪問を含め、大好きなシルクロードへの訪問など三十回以上中国を訪れ、その都度、壮大なスケールを感じるとともに、日本と異なる文化、習慣などに新鮮な刺激を受けました。

自国と異なる文化に接することは、多様性への理解や寛容性を育み、視野の広い人材育成につながります。とりわけ、若いうちに刺激を受けることで、より一層国際感覚の向上につながります。

こうした考えを念頭に私は平成三十年四月に開校した川口市立高等学校において、グローバル化が進むこれからの社会のなかで活躍できる人材を育成すべく、平成三十年の八月にアメリカ合衆国オハイオ州フィンドレー市と教育分野に関する友好都市の提携を実現しました。私自らが現地に赴き、当時のミハリック市長と提携の調印を行い、翌年の平成元年度から市立高校二名の生徒による長期留

学が始まりました。

また、川口市立高等学校では国際交流員を七名も配置し、日本人英語教諭とのチームティーチングにより、英語の「話す力」「書く力」を伸ばすためのグローバルリーダー養成プログラムを実践しており、将来の国際舞台で活躍する人材の輩出を期待するところです。

教育は、川口の将来を背負って立つ人づくりという点でも非常に重要な役割を担っているものと考えており、教育環境の充実に力を入れ、取り組んできました。

具体的には、市内の全小中学校の教室への冷房設備の導入や学校施設の耐震化、防犯カメラの設置などを実施し、現在は全中学校の体育館へのエアコン設置にも取り組んでいます。

さらに四月には、川口市立高等学校付属中学校が開校するなど、川口の子供たちに安全、安心で、最良の学習干渉を整えるために、多くの取り組みを展開して

きました。

こうした取り組みが評価されて、本市は、教育、文化環境や住環境など、実際に生活するという視点から専門家により選定された「本家に住みやすい街大賞二〇二一」において堂々の二年連続第一位に輝きました。これからも、川口の元気づくりを推進し、「さらなる選ばれる街川口」の実現に向けて、全力で取り組んでまいります。

私の日中友好交流の原点

と日中間の課題

理事長 加藤 展桁

私と中国、中国人との最初の出会いは約二十数年前川口法人会で役員をしていた折、上海出身の徐企剣さん、戴海燕さん夫妻に当時の中国の経済状況についての講演会で講師を依頼したことがスタートです。

その講演がご縁で徐さん夫妻とは家族同士のお付き

合いとなり、上海での息子さんの結婚式にも招待され現在もお付き合いは続いています。

徐、戴夫妻は文化大革命のとき復旦大学の学生で、農村労働を強制的に数年間過ごし、改革開放後に復旦大学に復学、卒業後日本に留学、埼玉大学を卒業後、夫妻は貿易会社を設立、貿易実務を行う傍ら、企業のおける企業活動を支援し、その後徐さんは上海で光学ガラスの研磨工場を設立稼働開始。現在は江蘇省常熟市にガラス研磨専用工場を建設稼働しています。奥さんの戴さんは、日本の起業支援とともに農業のBMW「バクテリア、ミネラル、ウオーターの略称」技術を導入し、上海郊外の農場で無農薬農業を実践経営しています。

また、徐、戴夫妻は日中友好活動にも熱心で、中日協会会員です。過日、復旦大学時の同級生でもある呂怡然先生(上海「新民晚报」

記者)夫妻が来日の折、仕事の間の一泊茨城県鉾田市へ案内し、三か所の農場を見学、実際にBMW技術を視察、帰国後、新民晚报にレポートを掲載、報告しました。私も同行しましたが、呂さん夫妻も性格が明るく紳士的でまた親日的態度で農家の方々と接し、訪問先の方々共々まさにこれが日中友好の基本であると感じた次第です。



北京で丁さんの日本語教室生と交流

私の中国訪問は上海に七回、法人会メンバーと大連、青島、学生時代の友人が教授をしている南京大学、川

口日中研修旅行で北京、承德、埼玉県と県関係にある山西省各地、その他甘肅省、雲南省、湖南省、湖北省、河南省、河北省の各主要都市と観光地をおよそ十五、六回現地視察をしています。近年は現地の日本語を学んでいる大学生たちと日本語と中国語を使い友好交流を図っています。

このような民間の友好交流は国家間で波風があるとさもその空気、雰囲気をはらげてくれます。今後も日中友好協会の研修旅行は続けてゆきたいと思っています。日本と中国は「二衣帯水」の関係にあるといわれています。昨年来のコロナ禍の状況下、丹羽宇一郎著『中国の大問題』(PHP出版)の新書を二回目の読み直しをしました。

丹羽さんは伊藤忠商事の社長、会長歴任の後、在中国大使を任じられ、現在は日本中国友好協会の全国本部の会長をされています。その豊富なご経験から数々

の問題を提起されています。私の感じたことを記しておきたいと思います。

一、人口十四億人

都市部駅の混雑、多民族国家を統治する知恵・共産党組織・教育・発想の根源

二、地方

都市と地方の格差・都市集中・住居面積の限界・中央の腐敗・地方の怒り・戸籍の問題

三、経済

東南アジア南進・アフリカ投資・中間の定着摩擦・国際マナーの欠如・バブル崩壊後はどうなるか

四、少数民族

新疆ウイグル地区・チベット問題・民族問題・テロ・宗教問題

五、日中

尖閣問題・領土問題・

日系企業進出の必然性とリスク・後退か撤退か前進か・資源の確保はどうなるか

六、安全保障

七〇年代の日中共同声明・賞味期限・消費期限の問題・村山談話・日米同盟と中露同盟

七、日本

日本の人口問題・経済問題の深刻さ・若者の活力・言語力(翻訳、通訳、交渉力)・留学力

八、環境

PM二・五の拡散・がん患者の増加・大気汚染と水問題・食品汚染・土壌浄化・環境ビジネスの活路

九、言語、倫理

人権問題・天安門事件以後・教育・国際ルール・国際マナーの認識・留学生・委縮する言論の自由

十、メディア

デモの形態・お雇いデモ・お雇い書き込み・悪意の脅威論・嫌中や嫌日論・日中友好の観念論

前記は各々に独立した問題ではなくリンクしていません。一部を見て全体を判断してはならないし、複合的複眼的な判断が必要であると思います。これらの問題を壁としてとらえるのではなく、双方で越えられるハードルとしてとらえるべきであると考えます。



天安門故宮博物館

日中は「二衣帯水」(引越

のでできない隣人」という重みを感じ、台湾、香港など海外民主勢力の目は無視できません。問題は山積してきますが日中友好は民間から一歩一歩、牛歩のごとく少しずつ友好の輪を広げていくことが重要です。

私たち川口日中は中国語九教室の運営をはじめ、小学生親子大使館訪問、中国映画無料鑑賞会、中国語スピーチコンテスト参加、法人会祭り、芝地区文化祭参加など各種事業を推進しており、来年設立五十年を迎えます。先輩諸氏の築かれた貴重な礎を感じ、今後も「友好」活動を積極的に推進してまいります。

中国百名山の旅

西田 雅博

数年前、北京書局で目にした書籍で運命が変わった。その本の名は「中国最美女座名山」である。それまでは漫然と物見遊

山に三山五岳や四大道教名山・四大仏教名山を目標に繰り返し返っていた中国旅行にさらに次なる目標を与えてくれた。というより、果てしない中国旅行の迷宮に取りつかれたといったほうが良い。



次の図はこの山の頂上の様子

この本の内容は、玉石混淆としていて、珠穆朗瑪峰(チョモランマ)エベレスト)から都市部の背後にある公園に近い山まであって、日本の百名山とは違っている。

また日本の百名山は少し努力すれば全山走破は可能であるけれど、中国のそれ

は前人未踏の山まで掲載されていても全山走破できる代物ではない。

今現在でやつと五十五座まで制覇してきた。制覇といっても、頂上に全部上がってきたかというところまである。遠くから眺めて、行って来たことにしないとけない山がある。つまりは登頂するための道などが許可されていない地域にある山。また勝手に入っていったらそれこそ公安につかまってしまふ山。また頂上のない山まで掲載してある。どういふことかというところ、山の名を冠した山域の一つに数えていたりするからである。つまり北アルプス山や南アルプス山などの山は日本には存在しないのと同じである。

それだけ中国の山域は広く、その山域の名称を百名山に入れていける一方で、市民の憩いの場になっているような小さな山まで含まれているのである。

しかし、この本のおかげで日本にいと絶対的に目にするのでできない、美しい風景のみならず、奇怪なる景色にも巡り合うことができた。



梵淨山 貴州省

とりあえずこの本に従って、旅を進めてゆけば、中国全土を旅できそうではある。コロナウイルスが収まって、また自由に中国旅行ができるようになれば、是非、再開して七十座ぐらいまでは制覇を目指してゆきたい。

コロナ特集

二〇二〇年コロナ禍での
活動を振り返って

林 芳男

昨年は二月十一日に定期総会、新春懇親会を開催後、中国語をはじめすべての協会活動が中止となる初めての経験を余儀なくされました。以下に一月からの内容をまとめてみました

- 一、埼玉県日中友好協会創立七十周年記念式典・祝賀会
- 二、二〇二〇年川口市日中友好協会定期総会・新春懇親会開催
- 三、川口市日中友好協会日本語教室休講
- 四、第四十二期入門A・Bクラス修了式開催
- 五、第四十一回埼玉県中国語スピーチコンテスト
- 六、新型コロナウイルス禍の協会活動

(一) 「埼玉県日中友好協会創立七十周年記念式典・祝賀会」 一月

二〇二〇年一月十九日(日)埼玉共済会館で「埼玉県日中友好協会創立七十周年記念式典」が開催されました。

「日中友好協会」と同様創立七十周年ということ、その歴史の深さに感慨深いものがありました。今回、創立七十周年記念として記念誌の作成を致しました。川口市日中友好協会からは奥ノ木会長、加藤理事長に祝辞をいただきました。

開催前に横断幕の設置や音響チェック、写真の準備を行いました。

川口市日中友好協会から栗原顧問、加藤理事長、内野理事、本多理事、酒井理事、服部理事が出席致しました。今回、埼玉県日中友好協会の新年祝賀会で初めてのことで、大野埼玉県知事にも出席していただきました。その他の来賓として

て中国大使館から聶佳参事官がお見えになりました。

記念式典は大野知事、聶佳参事官の来賓挨拶に続き、功労者表彰代表として前副会長の栗原顧問の挨拶がありました。



川口日中からの参加者

記念祝賀会に移る前に、「女子十二楽坊」の初代メンバー「霍曉君」の二胡演奏がありました。中国と日本の曲を織り交ぜながら見事な演奏を披露してくれました。

記念祝賀会に入ると各テーブルを回りながら話

ずみます。



県日中 70 周年記念式典

山西省日本人会の人達とは前年の「山西省写真展」や忘年会でもお会いし楽しい会話となりました。また、中国語講師の先生方は、川口市日中友好協会の講師としてもお馴染みです。

記念祝賀会の後、例年通り役員が集まり反省会を行いました。短期間の準備で良くできたことと皆の評価も高くどっと疲れも出てきました。後はそれぞれの地区協会での新春懇親会の準備が始まります。

(二) 「二〇二〇年定期総会・新春懇親会」二月

二月十一日(祭・火)「二〇二〇年度川口市日本中国友好協会 定期総会・新春懇親会」を前年同様「シャトー赤柴」で開催致しました。

年明け早々に国内で初めて新型コロナウイルスの感染確認がされ、また横浜港に停泊中のクルーズ船から多数の乗客の感染確認がされたことで、一気に新型コロナウイルスに対する不安が高まりました。



そのような中での開催に

不安はありましたが無事開催することができました。残念ですが懇親会に来賓として招待した中国大使館、日本僑報社・段躍中編集長など十名が欠席となりましたが、当初予定の出席人数は確保する事ができました。二〇二〇年定期総会は第一号議案から五号議案まで全て承認をいただきました。その後永年功労者表彰、功労者表彰を行い第一部の定期総会は終了しました。

第二部の新春懇親会では会長の奥ノ木川口市長の挨拶から始まり、来賓の前原市議会議長、新井崎玉県日本中国友好協会会長代行の挨拶と続きました。今回、前理事長・栗原顧問の卒寿を協会として祝い、記念品と花束の贈呈を行いました。続いて、乾杯の音頭を川口市功労者表彰受賞の市川光吉理事にお願い致しました。いよいよ今回で二回目になる受講生のクラス演目の開始です。二度目ということからユニークな演目も増

え、入門Aクラスの中国のラジオ体操や入門Bクラスの「小星星」、初級Bクラスの「多啦A夢」、日本語教室のフラダンス「上を向いて歩こう」と続きました。喝采を浴びたのはカラオケ大会に移り、入門クラスの中二と小学生の石井姉妹が歌う「津軽海峡冬景色」でした。予想外の曲目にテープが飛び、アンコールの声も上がり大いに盛り上がりました。



懇親会クラス別余興

最後に恒例の波多野理事に閉会の挨拶をお願いしま

した。直前まで新春懇親会の開催を心配しましたが無事に終わることができました。この後、新型コロナウイルスの拡大から日本語教室、中国語教室が休講となり、今回がギリギリの開催となりました。

(三) 日本語教室の休講

二月

二月十一日の「二〇二〇年新春懇親会」を無事に終え、いよいよ協会として新型コロナウイルスの対応をどうするか真剣に考える時期になりました。特に日本語教室は中国の人達が主なメンバーとなり、「武漢」に端を発した新型コロナウイルスには日本人以上に敏感になっています。まして教室は自由参加のため、毎回新しい人が参加してきます。

「川口漢語角」のときは二十名以上の参加もあり、事務所での開催も密は避けられない状態です。そこで二月十五日の日本語教室終

了後、「日本語教室」を次回から休講にすることを皆さんに伝えました。古くからのメンバーには事前に伝えていました。皆、すぐに休講を了承してくれました。二〇一六年に一人の受講生から再開した日本語教室も四年目を迎えました。



楽しそうな漢語角

二〇一八年には「川口漢語角」を月に一度開催し、川口に住む外国人と日本人の交流の場となりました。こちらは日本語教室のメンバーも参加して定着していきま

そして、その矢先の新型コロナウイルスの感染拡大により日本語教室と共に休止となりました。二月十五日の日本語教室終了後、皆で武漢の人達を励まし、コロナに負けないよう「中国加油! 武汉加油!」のロゴを作り記念写真を撮りました。



日本語教室スナップ

それから一年が経ち、今年一月七日に二度目の緊急事態宣言が発出されました。「日本語教室、川口漢語角」共に残念ながら休止状態が続いています。両方共に自由参加という

ことから、新型コロナウイルスが収束しなければ再開は難しいと思います。古いメンバーとは時々メール交換しています。

小学生がいたため、日本の四季折々の行事を再現したりしました。その他イベントに参加し手伝いをお願いしたりして私達も大いに楽しみ、とても助かりました。

一日も早く新型コロナウイルスが収束し、日本語教室、川口漢語角が再開できる日を心待ちにしています。

四 入門クラス修了式

入門B 八月
入門A 十月

三月一日から公立学校の一斉休講が決まり、中国語教室も三月末までの休講となりました。本来ならば三月は入門クラスの修了式、先生を交えての謝恩会と続く予定でしたが、突然の休講にそのままとなってしまいました。

三月と四月の休講予定が事務所の密を考えて、九月末までの延長となりました。但し七と九月の間は三月度の休講分の補講期間としました。日程は受講生と講師で都合の良い日を選びます。



入門Aクラス修了式

今回、入門Bクラスは八月十二日の補講授業の始めに修了式を行うことにしました。加藤理事長、本多教室代表、正副幹事出席の中、修了証の授与、理事長、本多教室代表の挨拶と続き五ヶ月遅れの修了式が終わりました。

入門Aクラスはオンライン授業としたため、授業の再開が決まった十月最初の授業を修了式と致しました。授業の再開は協会事務所ではなく、密を避けるため全て公民館利用となりました。事務所近くの並木公民館を利用しました。



入門Bクラス修了式

十月四日(日)授業再開初日、加藤理事長、本多教室代表、正副幹事出席の中、修了証の授与、理事長、教室代表の挨拶と続き七ヶ月遅れの修了式となりました。

ようやく入門A・Bクラス共に無事に終了することができ、ほっと一安心致しました。

(五) 創立七十周年記念

第四十一回「埼玉県中国語スピーチコンテスト」 十月

十月十八日(日)新型コロナウイルス禍の中、開催を心配されましたが万全の安全対策を実施して開催致しました。来場者の座席を一つ置きとして密を避けました。出場者は高校生六名、大学生二名、一般部門七名、団体一組と発表部門の出場者が無いため例年に比べると寂しく感じます。

例年発表部門には川口市日中友好協会の四月から中国語を始めた入門クラスの受講生が参加していました。が、今回は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い緊急事態宣言発出のため入門クラスの募集を中止に致しました。審査の先生は日大教授の

呉先生、日本僑報社の段編集長、中国語講師の李麗先生の三名です。発表者はマスクにフェイスシールド、演壇の前にはアクリル板と万全の準備です。



スピーチコンテスト団体

来賓の中の卓球プロコーチ、鄭慧萍女史は以前、川口市の学校で卓球を教えたことがあり、川口市日中友好協会もよく知っているということでした。出場の高校生部門は伊奈学園総合、和光国際高校と常連の高校ですが、一生懸命さが伝わってきます。そ

して皆さんとても上手です。大学生はさらに抑揚を付けて聴いている私たちを圧倒します。

一般部門では高校生の時から出場している女性が見事なスピーチを披露しました。一般部門の中で川口中国語教室の男性が出場して、きれいな発音で驚きました。話を聞くと個人レッスンで、所属を付けた方が良いと思いい川口中国語教室を付けたそうです。

今回、大使館に中国大使の賞の副賞をお願いしたら「中国茶」を送ってくださいました。

団体部門は伊奈学園総合で「オオカミと七匹の子ヤギ」という題名で、二十名近い出場者が高校生らしく元気に演じました。

今回の出場者のレベルの高さは審査員の先生が言うまでもなく私たちにも十分に伝わって来ました。日本大学の男性が協会賞、中国大使館賞は城西大学の女性でした。

最後に今回、中国語を勉強したいと電話をいただいた人に、スピーチコンテストの見学を提案したところ、早速見学に来ていただきその熱心さに驚きました。四月の開講の前にごこか見学したいということで、初級クラスの見学を勧めました。前向きでこちらも熱心になります。四月には新たな受講生を迎えられることを願います。

（六） コロナ禍の中での

協会活動

昨年二月十一日の定期総会・新春懇親会を最後に新型コロナウイルスの感染拡大に伴い「日本語教室」「中国語教室」と続けて休講することになりました。感染者が出たクルーズ船の横浜港入港から一気に不安が広がりました。協会事務所での授業は三密防止から難しく、受講生からも心配する声が上ががり、三月一日から休講することに決まりました。

した。

残念なのは新規募集の入門クラスが緊急事態宣言の発出により、今期は募集を中止せざるを得なかったことです。協会活動も現地の大学生との交流会をセッとした「中国視察旅行」や「国内慰安旅行」の中止。中国大使館との協力により三十五回を数える小学生「親子教室中国大使館訪問」や二十一回となる「中国映画無料鑑賞会」も中止となりました。その他「あなたの名前を中国語で」のコーナーが好評の「川口ボランティア見本市」や「芝園公民館文化祭」、「スキップふれあいフェス・川口法人会祭り」等毎年参加しているイベントが全て中止となりました。

「日本語教室」や「川口漢語角」のような、外国人との交流の場は自由参加のため、新型コロナウイルスが収束するまで再開は難しく、外国人受講生達が「あなたの名前を中国語で」のコーナー

などイベントにも積極的に参加していただけるまでになり、今後の協会活動に大いに期待を持った矢先の突然の休講でした。まだ日本語が不得手の人達とのメールでのやり取りは限界がありメールも途切れがちになりました。

協会活動の一つ一つを協力して実行していたものが、昨年三月以降全ての活動が新型コロナウイルスの名のもとに中止となりました。

今まで毎週のように顔を合わせていたメンバーや日本語教室の受講生と次の日から突然顔を合わせられなくなるのが新型コロナウイルスの怖さです。少しずつ協力しながら達成し、絆を高めていくことが百年に一度というコロナ禍で一気に崩れていくことの残念さを知らされませんでした。協会員だけでなく日本語教室、川口漢語角で知り合った中国、韓国、ベトナムの人達との交流も途絶え、その後どうしているのか気になります。

そして緊急事態宣言が解除されても三密の心配から協会事務所での授業ができない状態が続く、この状態が長く続くようなら折角中国語を学ぼうと受講した人達が離れていくのでは？という危機感からスタッフとの打ち合わせを重ね、授業はオンラインのクラスを除き、全てコロナ対策の管理された公民館で十月から再開することにしました。

長い自粛の中で久しぶりに顔を合わせるものの多少の不安もありますが、しばらくぶりに会う級友の顔は格別で、すぐに三月以前の状態に戻りました。

それから僅か三ヶ月後、感染者の急増のため緊急事態宣言の発出、また昨年と同じ状態が続くのか？と不安が寄切りました。それでも緊急事態宣言解除の際には、前回の経験を活かして安全対策は元より、少しずつでも以前のように戻れることを皆と協力しながら進みたいと思います。

コロナ禍の中国語教室

金曜朝 黒沢 宣捷

昨年二〇二〇年一月、私たちの金曜朝クラス(十一名)では、次年度(二〇二〇年度)の幹事選出を終え、三月の新旧交代の幹事会を待つばかりでした。しかし二月に入ると、横浜港に停泊中の大型クルーズ客船より新型コロナウイルスの感染者が発生したとのニュースが報道されました。

次第に国内に感染者が広がり、得体のしれないウイルスに日本中、世界中が大変な騒ぎとなりました。二〇二〇年四月に緊急事態宣言の一回目、二〇二一年二月には二回目が発出されました。

これにより中国語教室は二〇二〇年三月～六月、さらに二〇二一年一月～三月までの間、全クラスが休講となり、予定していた三月に新旧幹事会を開くことが

できませんでした。実際に、二〇二〇年度に行われた授業は前年度の未消化分の数回と十月～十二月の三か月間に行われた暫定授業だけでした。



入門の授業

休校が長く教室で会う機会が少なかったため、連絡意思疎通はとて不便でした。特に大変だったのは休講中の新幹事選出でした。私たちのクラスではオンライン通信はできませんが、連絡ツールとしては、パソコン、携帯電話、ショートメール、ライン、FAXなどが可能

です。しかしメールアドレスを交換していない、ラインに加入していないなど、連絡方法が統一されていないため、新幹事選出の話し合いは少し手間取り心配しました。しかし手を挙げて幹事を引き受けてくれる人が現れ、一件落着となりました。



金山嶺長城のモニュメント

毎週授業があるときには感じませんが、これからはクラス全員との連絡方法を事前にチェックし、準備しておくべきであったと痛感しました。現在コロナ

の状況は依然として不透明です。一日も早く収束し以前の安心した生活に戻ることを願っています。

二〇二一年度
川口市日中友好協会
「定期総会」文書での
議決回答報告

議決回答報告

コロナ禍のため三密を避けるようにとの指示により総会開催が中止となり、文書による議決となりました。文書での議決回答書にご協力いただきありがとうございます。

議決回答書送付数

一〇四名

回答数

第一号議案～第四号議案

賛成 七十五票

否決 ○票

おかげさまで第一～第四号議案ご承認ありがとうございます。

今年度も引き続きご支援ご協力よろしく願っています。

編集後記

昨年二月の定期総会・新春懇親会の後、日本語教室、中国語講座と続けて休講になり、その後の協会活動もすべて中止となりました。

一年間の活動を振り返り「日中がわぐち」の第六十一号を考えましたが、このままでは発行を断念、ということになりました。新型コロナウイルスの前に我々は如何に無力か、ということを感じ知らされました。

それでも何とか皆さんのご協力のおかげで第六十一号を発行することができました。ありがとうございます。

コロナ騒ぎで休刊となりました『にいはお』第四十二号の今年度の刊行に、ご協力お願いいたします。ことしは今年、入門生も期待できそうです。入門生だけでなく、先輩諸氏の寄稿を編集部一同大いに期待しております。